

# 平成29年度外国学校卒業学生特別選考小論文問題（第1種）

平成29年2月25日 9時30分～12時

科 類 理 科 三 類

受験番号

G

(注意) 解答は、A・Bそれぞれ解答用紙1枚で解答すること。

※上欄に、受験番号を記入しなさい。

## A（日本語で解答する問題）

以下の表および用語の説明を読んで、問に答えよ。

部位	生涯がん罹患リスク (%)		生涯がん死亡リスク (%)		5年相対生存率 (%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全がん	63%	47%	25%	16%	59%	66%
食道がん	2%	0.4%	1%	0.2%	36%	44%
胃がん	11%	6%	4%	2%	65%	63%
大腸がん	10%	8%	3%	2%	72%	70%
肝臓がん	4%	2%	2%	1%	34%	31%
膵臓がん	2%	2%	2%	2%	8%	8%
肺がん	10%	5%	6%	2%	27%	43%
乳房がん	-	9%	-	1%	-	91%
子宮がん	-	3%	-	0.7%	-	77%
卵巣がん	-	1%	-	0.5%	-	58%
前立腺がん	9%	-	1%	-	98%	-
悪性リンパ腫	2%	2%	0.8%	0.5%	63%	69%
白血病	1%	0.7%	0.6%	0.4%	38%	41%

(出典：国立がん研究センター・がん情報サービス)

生涯がん罹患リスク：人の生涯のうち、がんにかかる確率

生涯がん死亡リスク：人の生涯のうち、がんで死亡する確率

5年相対生存率：がんと診断された人のうち、5年後に生存している人の割合

<問>

- 1) 表中のデータからいくつかの傾向を読み取り、箇条書きで簡潔に説明せよ。
- 2) がんの部位によって5年相対生存率が大きく異なっている理由を考察し、200字以内で簡潔に記せ。

## B（日本語で解答する問題）

1951年、米国の研究者が、ヒト子宮癌組織から無限に増殖する細胞を分離し、ヒト由来細胞の培養を実現した。以来、ヒト由来のさまざまな細胞が培養できるようになった。これらのヒト細胞の培養技術は医学の進歩に大いに貢献してきたが、具体的にどのように貢献してきたか考察し、簡潔に説明せよ。また、このヒト細胞培養技術は、今後、医学の更なる発展にどのように貢献していくと予想されるか、自由に論ぜよ。

# 平成29年度外国学校卒業学生特別選考小論文問題（第2種）

平成29年2月25日 9時30分～12時

科 類

理 科 三 類

受験番号

G

(注意) 解答は、A・Bそれぞれ解答用紙1枚で解答すること。

※上欄に、受験番号を記入しなさい。

## A（日本語で解答する問題）

以下の表および用語の説明を読んで、問に答えよ。

部位	生涯がん罹患リスク (%)		生涯がん死亡リスク (%)		5年相対生存率 (%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全がん	63%	47%	25%	16%	59%	66%
食道がん	2%	0.4%	1%	0.2%	36%	44%
胃がん	11%	6%	4%	2%	65%	63%
大腸がん	10%	8%	3%	2%	72%	70%
肝臓がん	4%	2%	2%	1%	34%	31%
膵臓がん	2%	2%	2%	2%	8%	8%
肺がん	10%	5%	6%	2%	27%	43%
乳房がん	-	9%	-	1%	-	91%
子宮がん	-	3%	-	0.7%	-	77%
卵巣がん	-	1%	-	0.5%	-	58%
前立腺がん	9%	-	1%	-	98%	-
悪性リンパ腫	2%	2%	0.8%	0.5%	63%	69%
白血病	1%	0.7%	0.6%	0.4%	38%	41%

(出典：国立がん研究センター・がん情報サービス)

生涯がん罹患リスク：人の生涯のうち、がんにかかる確率

生涯がん死亡リスク：人の生涯のうち、がんで死亡する確率

5年相対生存率：がんと診断された人のうち、5年後に生存している人の割合

<問>

- 1) 表中のデータからいくつかの傾向を読み取り、箇条書きで簡潔に説明せよ。
- 2) がんの部位によって5年相対生存率が大きく異なっている理由を考察し、200字以内で簡潔に記せ。

## B（出願時に選択した日本語以外の言語で解答する問題）

1951年、米国の研究者が、ヒト子宮癌組織から無限に増殖する細胞を分離し、ヒト由来細胞の培養を実現した。以来、ヒト由来のさまざまな細胞が培養できるようになった。これらのヒト細胞の培養技術は医学の進歩に大いに貢献してきたが、具体的にどのように貢献してきたか考察し、簡潔に説明せよ。また、このヒト細胞培養技術は、今後、医学の更なる発展にどのように貢献していくと予想されるか、自由に論ぜよ。